



第88期 株主通信

平成25年4月1日～平成26年3月31日



株式会社 **イチケン**

証券コード:1847

経営理念

より豊かで快適な

『くらし空間』の実現

Contents

ごあいさつ	P1
業績ハイライト	P2
営業のご報告	P3
財務諸表	P5
トピックス	P7
会社概要／株式情報	P9

●ごあいさつ

代表取締役社長の土谷忠彦でございます。株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社第88期における営業のご報告にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

まず、皆様にお詫びを申し上げなければなりません。当社において、過年度に一部不適切な会計処理がなされていたこと、及びその結果として平成22年3月期第2四半期から平成25年3月期までの決算内容を訂正する事態になったことにつきまして、多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを心より深くお詫び申し上げます。

私どもは、本件を真摯に受け止め、二度とこのような事態を引き起こさぬよう、ただちに再発防止策を取締役会にて決定するとともに、私を委員長として、外部の有識者を加えた「再発防止委員会」を設置し、再発防止策の確実な実施に取り組んでまいりました。その実施状況は「改善状況報告書」としてとりまとめ、本年4月に東京証券取引所に提出し、受理いただきました。

今後につきましても、ガバナンス機能を強化してまいります所存でございます。

株主の皆様をはじめ、ステークホルダーの皆様の信頼回復に鋭意努力してまいりますので、何卒、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私どもは、「より豊かで快適な『くらし空間』の実現」という経営理念のもと、「商業施設の建築事業を中核とした特性のあるゼネコン」、「安定成長する事業基盤の構築」を基本方針として、企業価値の向上に取り組んでおります。

当期におきましては、公共投資の増加や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要による住宅建設の増加等持ち直しの動きが見られたものの、技能労働者の不足に伴う労務費の高騰や資材価格の上昇など、依然として厳しい状況のなか、コア事業である「商業施設」の建築及び内改装工事に加え、住宅や介護施設等の受注活動にも積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当期の業績につきましては、売上高、営業利益、経常利益ともに当初の予想を上回る結果を残すことができました。

当社を取り巻く経営環境は今後も厳しい状況が続くものと予想されますが、株主の皆様のご期待に応えるべく、社員一同一丸となってさらに努力する所存でございますので、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

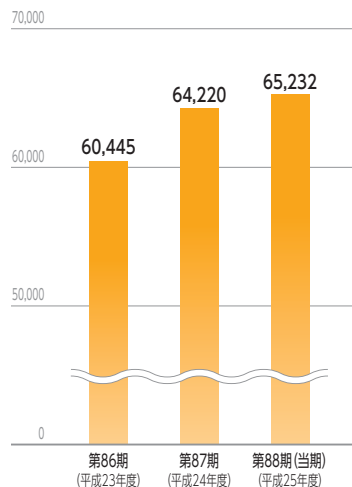
平成26年6月

代表取締役社長 土谷 忠彦

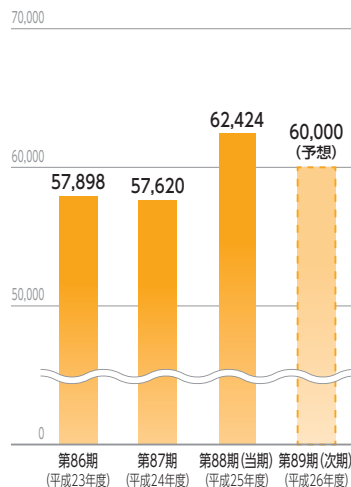


(単位:百万円)

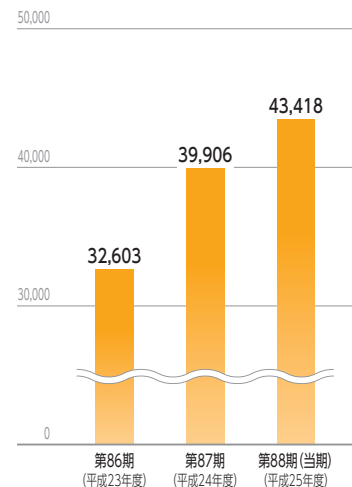
受注高



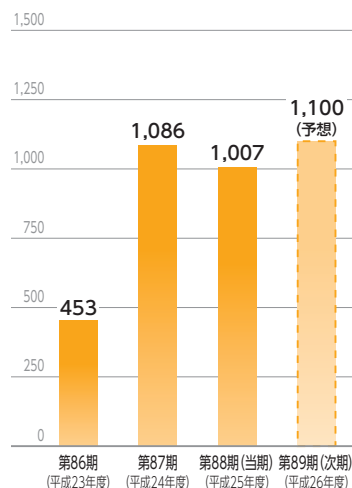
売上高



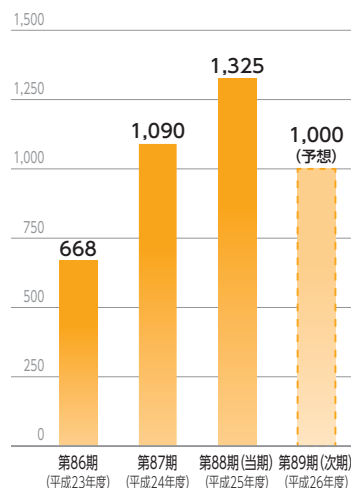
手持工事高



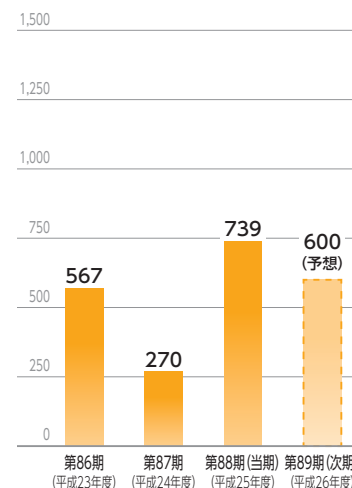
営業利益



経常利益



当期純利益



※第87期は賃貸用不動産の減損損失(443百万円)を特別損失に計上しました。

※上記の第86期及び第87期の数値は、金融商法取引法に基づく過年度決算訂正後の数値であります。

商業施設の建築及び内改装工事のほか、 住宅・介護・スポーツクラブ・アミューズメント施設等の 受注活動にも注力し、 しっかりした安定収益基盤を築いてまいります。

当期の概況

当期におけるわが国経済は、経済・金融政策による円高是正等を背景として持ち直しの兆しが見られ、先行きについては海外の景気減速の懸念等は残るものの、景気回復への期待が高まりつつあります。

建設業界におきましては、公共投資の増加や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要による住宅建設の増加等持ち直しの動きが見られたものの、技能労働者の不足に伴う労務費の高騰や資材価格の上昇など、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、私どもは受注拡大のため、コア事業である「商業施設」の建築及び内改装工事に加え、住宅や介護施設等の受注活動にも積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当期の業績につきましては、受注高は前期比1.6%増の652億3千2百万円となりました。売上高は前期比8.3%増の624億2千4百万円となりました。その内訳は、建設事業が前期比8.4%増の617億2千万円、不動産事業が前期比0.2%増の7億4百万円であります。次期への繰越工事高は前期比8.8%増の434億1千8百万円となりました。

損益につきましては、完成工事高の増加に伴い、完成工事

総利益は増加したものの、過年度の決算訂正に係わる諸費用等の発生により、販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前期比7.3%減の10億7百万円となりましたが、営業外収益のうち貸倒引当金の戻入れ益が前期に比べ増加したことなどにより、経常利益は前期比21.6%増の13億2千5百万円となりました。また、特別損失に計上しました賃貸用不動産の減損損失が前期に比べ減少したことなどにより、当期純利益は前期比173.8%増の7億3千9百万円となりました。

次期の見通し

建設業界におきましては、消費税増税に伴う景気減速や技能労働者不足に伴う労務費の高騰及び資材価格の上昇等による工事採算性の悪化などが懸念され、今後も厳しい経営環境が続くものと思われます。

このような状況において、私どもは、「商業施設の建築事業を中核とした特性のあるゼネコン」を基本方針として企業価値の向上を目指してまいります。

重点施策といたしまして、引き続き「商業施設」の建築及び内改装工事に重点的に取り組むとともに、住宅及び介護施設の

建築などへも積極的な取り組みを行い、受注の拡大に努めてまいります。

また、併せて「企画提案型営業の推進」や「業務効率化による経費削減」等を行い、売上高の安定確保と利益改善を図ってまいります。

なお、「不適切な会計処理」の再発防止に関しましては、社長を委員長として、外部の有識者を加えた「再発防止委員会」を設置し、防止策の実施と運用を行ってまいりました。当社のガバナンス機能を強化して、引き続き、再発防止に向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様へ

私どもの重要な主題は、「安定した収益基盤の構築」と「中長期的成長のための事業戦略の策定」です。

当社は平成27年度(2015年度)に創立85周年を迎えます。これからは、商業施設の建設を中核としつつも、さらに『くらし空間』を掘り起こし、住宅、オフィス、健康、介護、スポーツ、レジャー等の建築をしっかりと事業領域とするゼネコンに発展・成長させたいと考えております。

私どもの目指す先は「より豊かで快適なくらし空間を創造するゼネコン」であり、その「新しいブランドを展開することにより、広く社会へ貢献する企業」であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜り、当社を大きく育てていただきますように心からお願い申し上げます。

させば五番街



国立病院機構 大阪医療センター



カインズホーム

CAINZ HOME
DO IT YOURSELF



カインズホーム 千葉ニュータウン店



させば五番街

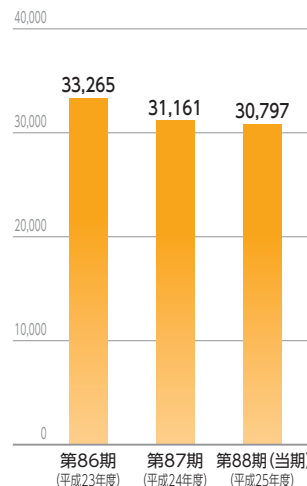
●財務諸表(要約)

貸借対照表 (単位:百万円)		
科 目	当 期 平成26年3月31日現在	前 期 平成25年3月31日現在
資産の部		
流動資産	25,663	25,834
固定資産	5,134	5,326
有形固定資産	3,248	3,498
無形固定資産	42	50
投資その他の資産	1,843	1,778
① 資産合計	30,797	31,161
負債の部		
流動負債	19,247	20,177
固定負債	3,356	3,400
② 負債合計	22,603	23,577
純資産の部		
株主資本	7,742	7,183
資本金	4,301	4,301
資本剰余金	186	186
利益剰余金	3,272	2,712
自己株式	△18	△17
評価・換算差額等	407	363
新株予約権	43	36
③ 純資産合計	8,194	7,583
負債純資産合計	30,797	31,161

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

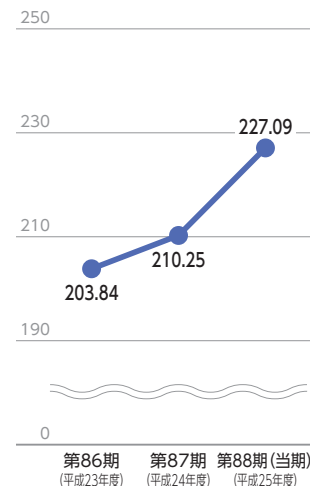
総資産

(単位:百万円)



1株当たり純資産

(単位:円)



ポイント① 資産合計

資産合計は前期と比べ3億6千3百万円減少しております。主な内容は、流動資産については、完成工事高の増加に伴う完成工事未収入金の増15億8千1百万円、及び前期末日が金融機関の休業日にあたったため通常は月末に行われる工事費等の支払いが当期にずれ込んだことにより、現金預金の支出が増加したことなどに伴う現金預金の減20億5千7百万円、固定資産については賃貸用不動産の減損損失の計上に伴う土地及び建物等(有形固定資産)の減1億6千9百万円であります。

ポイント② 負債合計

負債合計は前期と比べ9億7千4百万円減少しております。主な内容は、前期末日が金融機関の休業日にあたったため通常は月末に行われる工事費等の支払いが当期にずれ込んだことにより、前期の工事未払金が増加したことなどに伴う工事未払金(流動負債)の減17億7千9百万円であります。

ポイント③ 純資産合計

純資産合計は前期と比べ6億1千1百万円増加しております。主な内容は、利益剰余金が、前期に係る剰余金の配当により1億7千9百万円減少したものの、当期において当期純利益7億3千9百万円を計上したことにより、5億6千万円増加したことあります。

損益計算書

(単位:百万円)

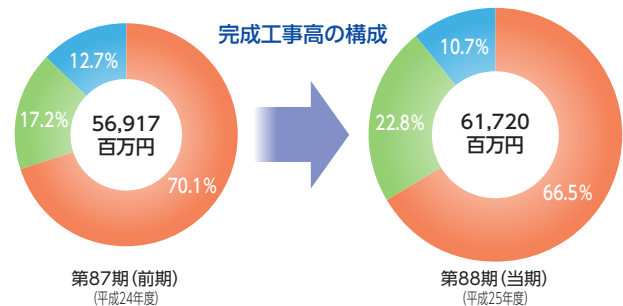
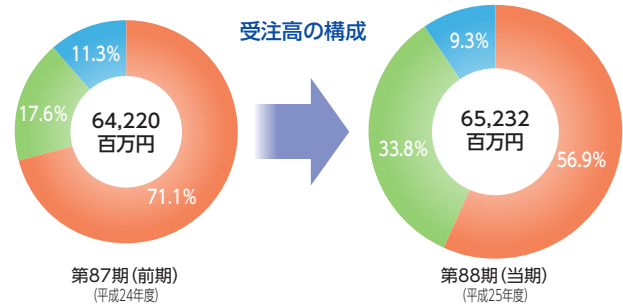
科 目	当 期 自 平成25年4月 1 日 至 平成26年3月31日	前 期 自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日
売 上 高	62,424	57,620
売 上 原 価	59,470	54,750
売上総利益	2,953	2,870
販売費及び一般管理費	1,946	1,783
④ 営 業 利 益	1,007	1,086
営業外収益	433	129
営業外費用	115	125
⑤ 経 常 利 益	1,325	1,090
特 別 利 益	—	125
特 別 損 失	169	444
税引前当期純利益	1,156	771
法人税、住民税及び事業税	519	128
法人税等調整額	△102	373
⑥ 当期純利益	739	270

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期 自 平成25年4月 1 日 至 平成26年3月31日	前 期 自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日
⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,848	△904
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26	355
財務活動によるキャッシュ・フロー	△182	△181
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額	△2,057	△731
現金及び現金同等物の期首残高	8,983	9,714
現金及び現金同等物の期末残高	6,925	8,983

建設事業の概況

■ 商業施設
■ 住宅
■ その他


ポイント④ 営業利益

完成工事高の増加に伴い完成工事総利益が増加したものの、過年度の決算訂正に係わる諸費用等の発生により販売費及び一般管理費が増加したため、前期比7.3%減の10億7百万円となりました。

ポイント⑤ 経常利益

経常利益は、貸倒引当金戻入れ益(営業外収益)が前期に比べ増加したことなどにより、前期比21.6%増の13億2千5百万円となりました。

ポイント⑥ 当期純利益

当期純利益は、賃貸用不動産の減損損失(特別損失)が前期に比べ2億7千4百万円減少したことなどにより、前期比173.8%増の7億3千9百万円となりました。

ポイント⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー

前期末日が金融機関の休業日にあたったため、通常は月末に行われる工事費等の支払いが当期にずれ込んだことにより、現金預金の支出が増加したことなどに伴い△1,848百万円となりました。

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

※過年度の数値は、決算訂正後の数値であります。

施工事例

● 販わいを創出するイチケン

基本構想からマーケティング、そして設計・施工の空間づくりに関わるすべての業務を一貫して高い品質で創造すること。それが私たちイチケンのビジョンであると考えます。またそれはイチケンならではの蓄積された情報・ノウハウ、広いネットワーク力に支えられています。当社は、品質の向上と安全の徹底に努め、いかなるときもクリエイティビティを発揮し、より豊かで快適な『くらし空間』の実現を目指します。

商業施設



エディオン京橋店

(大阪府大阪市)

竣工：平成25年11月

構造：S造 地下1階 地上4階建

延床面積：15,510㎡



カインズホーム 千葉ニュータウン店

(千葉県印西市)

竣工：平成25年11月

構造：S造 2階建

延床面積：28,474㎡

ホテル

アパホテル〈銀座宝町〉

(東京都中央区)

竣工：平成25年10月

構造：S造 15階建

延床面積：1,497㎡



医療施設



国立病院機構 大阪医療センター

(大阪府大阪市)

竣工：平成26年3月

構造：RC造 7階建

延床面積：4,276㎡

ささば五番街

(長崎県佐世保市)

竣工：平成25年10月

構造：S造

延床面積：10,499㎡



● 会社概要／株式情報

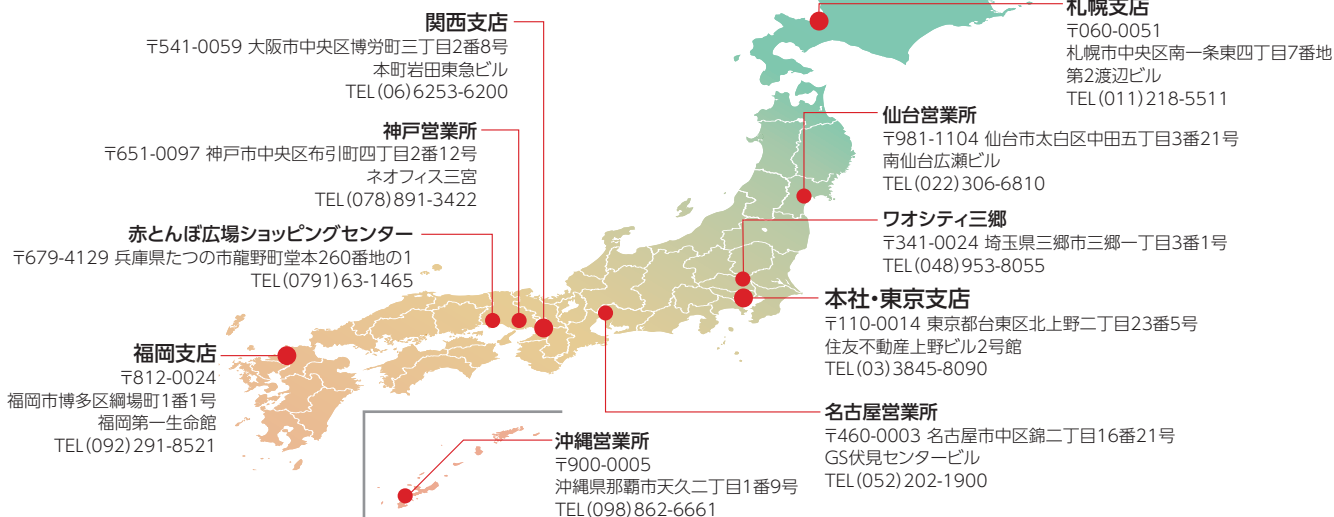
● 会社概要

(平成26年3月31日現在)

商 号	株式会社イチケン
創 業	昭和5年6月
資 本 金	43億163万9,340円
営業種目	総合建設業、貸ビル賃貸業、住宅・商業施設ディベロッパー事業、都市環境整備事業、複合商業施設企画・設計・施工・監理、専門店舗企画・設計・施工・監理
従業員数	530名
取引銀行	三井住友銀行 三菱東京UFJ銀行 東日本銀行 他

● 事業所一覧

(平成26年3月31日現在)



● 役 員

(平成26年6月27日現在)

取締役および監査役

代表取締役会長	水 野 憲 雄	常勤監査役	木 村 隆 夫
代表取締役社長	土 谷 忠 彦	監査役(社外)	喜 多 悟
取 締 役	長谷川 博 之	監査役(社外)	西 村 正 明
取 締 役	吉 田 稔	監査役(社外)	青 柳 正 敏
取締役(社外)	本 山 洋 平		

執行役員

社長執行役員	土 谷 忠 彦	執行役員	野 崎 晃
専務執行役員	長谷川 博 之	執行役員	阿 野 浩 二
常務執行役員	吉 田 稔	執行役員	山 口 清 人
常務執行役員	古 川 仁 一	執行役員	松 本 英 典
常務執行役員	湯ノ口 智 治	執行役員	佐 々 英 昭
執行役員	西 出 英 雄	執行役員	磯 野 慶 治
執行役員	中 寺 伸 一		

●株式の状況

(平成26年3月31日現在)

発行可能株式総数	111,200,000株
発行済株式の総数 (自己株式100,754株を含む)	35,992,000株
株主数	4,423名

●大株主

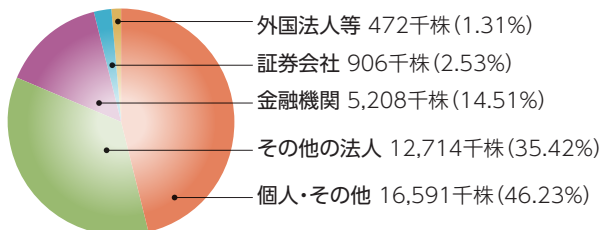
(平成26年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 マルハン	11,714	32.63
株式会社 三井住友銀行	996	2.77
全国一栄会持株会	902	2.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	832	2.31
株式会社 三菱東京UFJ銀行	592	1.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	400	1.11
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	330	0.91
イチケン従業員持株会	300	0.83
福井利彦	275	0.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	260	0.72

- (注) 1. 持株数上位10名の株主について記載しております。
2. 持株数は、1,000株未満の株式数を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、各株主の持株数(1,000株未満の持株数を含む)の自己株式を除く発行済株式の総数に対する比率を記載しており、パーセントの数値は、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。
4. 全国一栄会持株会は、当社の取引先企業で構成されている持株会であります。

●所有者別株式分布の状況

(平成26年3月31日現在)



(注) 自己株式を除外した比率を記載しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年 6 月開催

基準日	定時株主総会の議決権	毎年3月31日
	期末剰余金配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(通話料無料)

特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

公告方法 電子公告により行います。
(当社ホームページ)
<http://www.ichiken.co.jp>
但し、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ

▶株式に関する住所変更等のお申出先について

1. 証券会社の口座に株式をお持ちの株主様
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

2. 特別口座に株式をお持ちの株主様

特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

▶未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

▶配当金計算書について

配当金お支払いの際にお送りしております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告をされる際は、その添付資料としてご使用いただけます。ただし、株式数比例配分方式を選択されている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算を証券会社等にて行いますので、確定申告をされる際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認ください。

当社ホームページのご案内

<http://www.ichiken.co.jp>



当社ホームページでは、ニュースリリースをはじめ、詳しい事業案内やIR情報など充実した情報を適時、掲載しています。



株式会社 **イチケン**

〒110-0014 東京都台東区北上野二丁目23番5号 住友不動産上野ビル2号館
電話 (03) 3845-8090 (9:00~18:00、土・日・祝日・年末年始を除く)

